

**コンゴ(民)月例報告**  
**政治関連**  
**2017年10月**

**主な出来事**

●6日-31日まで、野党側の国民議会議員は、議会をボイコットした。今年6月13日に野党側議員2名が提出した、ラマザニ・シャダリ内務・治安相とタンブエ司法大臣に対する不信任案が6日、与党議員が提出した異議申立てにより却下されたことに抗議したものの。

●9日、MONUSCO 報道官は、同日午前5時半頃、北キブ州ベニ地区で ADF(民主同盟軍、ウガンダ系反政府武装勢力)が マムンディオオマにある MONUSCO 基地を攻撃し、MONUSCO 軍兵士2名が死亡、12名が負傷したと報じた。

●14日-18日、第2回目となる政府/CENI/CNSA の3者による選挙プロセス評価ワークショップが行われた。最終コミュニケでは、CENI に対し、憲法及び昨年12月31日の政治合意に従い、現実的な選挙日程を発表するよう求めた。

●14-15日、ズマ南ア大統領がコンゴ(民)を訪問し、カビラ大統領と面会した。両大統領は、第37回 SADC 首脳会議での決議に対する賛同を繰り返し、また、ズマ大統領は、コンゴ(民)の選挙プロセスに対する支持を表明した。

●18-20日、カビラ大統領は19日に開催された第7回大湖地域国際会議(ICGLR)首脳会合のためコンゴ(共)のブラザビルを訪問した。ブラザビルでは、サス・ンゲソ・コンゴ(共)大統領、ロウレンソ・アンゴラ大統領、シンディムヲ・ブルンジ第1副首相とそれぞれ首脳会談を行った。

●25日-28日、ヘイリー米国連大使は、コンゴ(民)を訪れた。26日には、北キブ州ゴマ市とキチャンガ国内避難民(IDP)キャンプを視察、27日にはコンゴ(民)関係者と会談を行った。

●27日、カビラ大統領は、約90分間にわたりヘイリー米国連大使と会談した。会談後、ヘイリー大使は一部の記者に対し、「米国としては、2018年末までに、コンゴ(民)における選挙の実施を見たいと述べた」と伝えた。

## 1. 内政

### (1) 中央カサイ州知事の罷免

・4日、中央カサイ州議会は、業務怠慢と3百万ドルの不正支出等により、アレックス・カンデ州知事を罷免した。同知事はカムウィナ・ンサプの民兵による問題の発生後、昨年8月以降は同州を離れていた(4日付 ACP)。

### (2) キンシャサ州議会議長の罷免

・5日、キンシャサ州議会は、業務怠慢を理由に、ンシンギ(Roger Nsingi)議長を罷免した。ンシンギ議長自身は同審議に不在だった。同議長は過去(2010年9月)にも不信任決議を受け、10月に最高裁判所によって復権されていた。2011年2月には野党 MLC から除名され、MLC-Liberal (MLC の重複政党、ルアカ党首)に参加していた(5日付 RFI)。

### (3) 第2回選挙プロセス評価ワークショップ(政府/CENI/CNSA)の開催

・14日、第2回目となる政府/CENI/CNSA の3者による選挙プロセス評価ワークショップの開会式が行われた。同開会式では、オレンガコイ合意フォローアップ国家評議会(CNSA)議長、ナンガ一独立国家選挙委員会(CENI)委員長、チバラ首相がスピーチを行い、同ワークショップの目的が「各方面の見解を調整する」ことである点を強調した。選挙日程について「ナ」委員長は、同ワーク

ショップの後に、現実的な選挙日程を発表すると述べ、チバラ首相は、同ワークショップ中に、選挙日程を決定するための努力を行うと述べた。

・18日夜、第2回選挙プロセス評価ワークショップが閉会し、コミュニケが出された。同コミュニケでは、CENI に対し、憲法及び昨年12月31日の政治合意に従い、現実的な選挙日程を発表するよう求めた。

#### (4)カビラ大統領とヘイリー米国連大使の会談

・27日、カビラ大統領は、約90分間にわたりヘイリー米国連大使と会談した。会談後、ヘイリー大使は一部の記者に対し、「会談は堅固で率直であった」、「米国としては、2018年末までに、コンゴ(民)における選挙の実施を見たく、さもなければ、国際社会からコンゴ(民)への支援はなくなると伝えた」と述べた(27日付 Reuters)。

#### (5)野党の動向

##### ア 野党議員による議会ボイコット

6日、野党側の国民議会議員は、議会のボイコットを開始した。これは、今年6月13日に野党側議員2名が提出した、ラマザニ・シャダリ内務・治安相とタンブエ司法大臣に対する不信任案が、同日(6日)、与党 PPRD のバババスウェ議員が提出した異議申し立てにより却下されたことに抗議するもの。

・9日、ミナク国民議会議長と野党側党首は、不信任案と異議申し立ての関係に関する野党間の見解の不一致について、憲法裁判所の判決を求めるための協議を行い、これに基づいて10日、ミナク国民議会議長は憲法裁判所に対し、不信任案と異議申し立ての関係に関する判決を行うよう求めた。

・30日、野党議員はミナク国民議会議長と協議を行った。その結果、31日に、議会への復帰を決定し、11月1日から実際に復帰した。

##### イ 野党プラットフォーム「Rassemblement(ラッサンブルマン)」の動き

・12日、F・チセケディ野党プラットフォーム「Rassemblement」総裁(UDPS 副幹事長)は記者会見で、ナンガー独立国家選挙委員会(CENI)委員長が、「選挙人登録作業の終了から投票日まで504日を要する」と発言した件に関し、「カビラ大統領とナンガー委員長は国民に対し宣戦布告を行った。ナンガー委員長は無責任である」と批判、国内全土の「Rassemblement」下部組織の活動家を訪れて「大衆動員キャンペーン」を開始するため、まずルブンバシ市から着手すると発表した。

##### ウ 野党 UNC がカングディア予算大臣兼国務大臣の内閣からの引き上げを決定(同大臣は留任を決意)

・23日、野党 UNC(コンゴ国民連合)は、カメレ党首名でコミュニケを発表し、UNC 選出のピエール・カングディア予算大臣兼国務大臣のチバラ内閣からの引き上げを決定したと発表した。

・23日、クセマ UNC 報道官は、「カングディア大臣は本決定に同意し、内閣を去る手続き中である」と伝えた。カングディア大臣とはこれまでのところ連絡がとれていない(23日付 AFP)。

・24日、カングディア大臣はキンシャサの合同庁舎で記者会見を行い、UNC の決定を支持せず、同決定は自分には関係がないことを宣言した。同大臣は、チバラ内閣における UNC 唯一の閣僚であるが、カメレ UNC 党首の前日(23日)の発表に反し、大臣のポストを辞任しないことを決めた。

##### エ バディバンガ前首相が政治プラットフォーム「Les Progressistes」を発足

・28日、サミー・バディバンガ前首相(UDPS et Allies 代表)は、政治プラットフォーム「Les Progressistes(レ・プログレシスト)」を発足、コーディネーターに就任した。同プラットフォームの創始者によると、設立の目的は、今次選挙前に、すべての野党勢力を結集すること。

### オ ベンバ MLC 党首によるアピール

・30日、国際刑事裁判所(ICC)に勾留中のジャン＝ピエール・ベンバ MLC 党首(上院議員)は、コンゴ(民)の野党と市民社会に対し、政権交代を要求すべく団結を呼びかけるアピールを発出した。

## 2. 外交

### (1) ガコソ・コンゴ(共)外相がカビラ大統領を訪問

・4日、ガコソ・コンゴ(共)外務・協力・在外コンゴ人大臣が、サス・ンゲソ大統領からの親書を携えて、カビラ大統領を訪問した。

### (2) ズマ南ア大統領のコンゴ(民)訪問

・14-15日、ズマ南ア大統領がコンゴ(民)を訪問し、カビラ大統領と面会した(コンゴ(民)側からタンブエ司法大臣、南ア側からヌコアナ＝マシャバナ国際関係・協力大臣が同席)。SADC 域内及び大湖地域の政治・治安情勢に関し、両大統領は、第37回 SADC 首脳会議での決議に対する賛同を繰り返し、また、ズマ大統領は、コンゴ(民)の選挙プロセスに対する支持を表明した。

### (3) カビラ大統領のコンゴ(共)訪問

・18-20日、カビラ大統領は19日に開催された第7回大湖地域国際会議(ICGLR)首脳会合のためコンゴ(共)のブラザビルを訪問した。ブラザビルでは、サス・ンゲソ・コンゴ(共)大統領、ロウレンソ・アンゴラ大統領、シンディムヲ・ブルンジ第1副首相とそれぞれ首脳会談を行った。

## 3. 東部及び大湖地域情勢

### (1) 北キブ州ルベロ地区で民兵が MONUSCO 基地を攻撃し、3名死亡

・6日早朝、北キブ州ルベロ地区(州都ゴマ市の北300キロ)中心部から近い MONUSCO 基地を、マイマイ・マゼンベ(マイマイは自警団的な性格をもった武装集団)と思われる武装集団が攻撃したと、コミン MONUSCO 副司令官は発表した(6日付 AFP)。MONUSCO の反撃により、武装集団側に3名の死者が発生、1名が負傷して MONUSCO 施設で治療を受けている。また、MONUSCO の兵士2名が軽傷を負った。5日には、同地区カパンガ(Kapanga)でコンゴ(民)国軍(FARDC)がマイマイを攻撃し、マイマイ側10名が死亡した。

### (2) 北キブ州ベニ地区の ADF との戦闘で MONUSCO 兵士2名が死亡

・9日、MONUSCO 報道官は、同日午前5時半頃、北キブ州ベニ地区で ADF(民主同盟軍、ウガンダ系反政府武装勢力)が マムンディオマ(Mamundioma)にある MONUSCO 基地を攻撃し、MONUSCO 軍兵士2名が死亡、12名が負傷したと報じた。同報道官はまた、これを受け、MONUSCO 軍は陸と空から展開していると述べた。同地区はここ数か月間平静状態にあったが、ADF はこの数日間で、FARDC に対する攻撃を再開していた。これに先立ち7日、ベニ地区長は、ウガンダとの国境に向かうカマンゴ(Kamango)－ムバウ(Mbau)間で、約10台のバイクタクシーに乗っていて待ち伏せを受けた市民が ADF に連れ去られて行方不明になったと述べた。これに関し一部メディアは、市民22名(うち1名は女性)が斬首されたと報じている。8日には、前日に市民約20名が行方不明となったことを受け、FARDC は、現在閉鎖されているベニ地区のカマンゴ－ムバウ間で、ADF に対する激しい攻撃を行った(9日付 AFP)。

### (3) カビラ大統領の退陣を求める抗議行動

・30日、北キブ州ゴマ市で、LUCHA(Lutte pour le changement(変化への闘争、若者による民主化推進グループ)も加盟している市民社会活動集団「CASC」が、カビラ大統領の今年末の退陣を

求めて呼びかけた抗議行動が、デモ隊と治安部隊の衝突に発展し、市民4名と警察官1名が死亡した。31日、北キブ州国家警察(PNC)は、同抗議行動に関連し、28名を逮捕したと発表した。逮捕理由は武器の不法所持で、全員が軍事法廷に送られた。

・31日、北キブ州ベニ市で、カビラ大統領の政権居座りに反対するデモ行進を行っていた9名の活動家が逮捕された。(翌11月1日には全員が釈放された。)

#### 4. その他地域情勢

##### オー・カタンガ州ルブンバシ市における野党支持者の逮捕

・22日、コンゴ(民)国家警察のキュング・オー・カタンガ州警察長官は、フェリックス・チセケディ UDPS 副幹事長が23日にルブンバシ市を訪問すると発表した前日(22日)、州警察長官の車両に投石し、カビラ大統領を侮辱するなどしたとして、28名の UDPS 党員を逮捕したと発表した。同日、カボンゴ UDPS 青年部部長は AFP に対し、逮捕者は48名で、警察が UDPS 本部に乱入し、事務所に投石を行ったり、党員を殴打したりするなどし、事務所にあった多額の現金も持ち去ったと述べた。19日には、サングザ・ルブンバシ市長が、「公の場でのデモや集会は、当局による書面での許可と、7日前の受領証がない限り実施できない」との決定を、コミュニケで再度通告していた(22日付 AFP)。

・25日、キュング・オー・カタンガ州警察長官とカボンゴ UDPS 地区責任者は共に、22日と23日にかけて逮捕された野党支持者は、25日午前、全員が釈放されたと発表した。

#### 5. その他

##### (1) AU 委員会代表団のコンゴ(民)訪問

・2日、AU は9月28日から10月1日まで行われた、ムーサ・ファキ AUC 委員長のコンゴ(民)訪問にかかるコミュニケを発出し、同委員長の各種会談での要点について、「協議相手に対し、憲法と昨年12月31日の政治合意に則り、それぞれの政治的立場を乗り越え、平穏で、真にコンセンサスに基づく選挙プロセスを展開するよう強く促し」、また、「一刻も早い理にかなった選挙日程を発表するよう、CENI の関与を評価した」と伝えた。

##### (2) オレンガコイ合意フォローアップ国家評議会(CNSA)議長宅の襲撃

・16日午前2時頃、キンシャサ市ンガリエマ地区にあるオレンガコイ CNSA 議長の自宅が、目出し帽などをかぶった7名以上の集団に約30分にわたって襲撃され、同議長宅の門と壁には20箇所にも及ぶ銃弾の痕が残された。家には妻と子どもがいたが、怪我等はなかった(16日付 AFP)。

##### (3) 米 NGO「Enough Project」がコンゴ(民)の銀行によるヒズボラへの送金疑惑の報告書を発表

・16日、米 NGO「Enough Project」による調査イニシアチブ「The Sentry」は、ヒズボラを支援しているとして、2009年から米による経済制裁の対象となっているベルギー系レバノン人カシム・タジディーン(Kassim Tajideen)と関連のある企業宛の5件の銀行送金を発見した等の報告書を発表した。これら送金は、2011年に、カビラ大統領の弟である セレマニ・フランシス・ムトゥワレ(注:一般には異母兄弟と言われている)が経営する BGF 銀行が行ったもの。報告書によると、同行の職員は幹部に対し、送金がタジディーンの兄弟のひとりが経営する Congo Futur 社の子会社宛であることを警告した。Congo Futur 社も、テロリストへの資金提供により、2010年から米による経済制裁を受けている(18日付 RFI)。

##### (4) 第7回大湖地域国際会議(ICGLR)首脳会合

・19日、第7回大湖地域国際会議(ICGLR)首脳会合がコンゴ(共)のブラザビルで開催された。サス・ンゲソ大統領は開会式で、「コンゴ(民)の治安及び政治状況は引き続き気がかりな状況である」と述べ、大湖地域諸国の協議に基づく行動を奨励した。同首脳会合に参加した国家元首はサス・ンゲソ大統領の他、カビラ・コンゴ(民)大統領、カガメル・ルワンダ大統領、ロウレンソ・アンゴラ大統領、トゥアデラ中央アフリカ大統領、ルング・ザンビア大統領。

**(5) 野党支持者逮捕等をめぐるルブンバシ市の動きに関する EU-米-スイス-加による共同コミュニケ**

・25日、当地 EU 代表部、米、スイス及び加は、ルブンバシ市で野党メンバー多数が逮捕された件に関し、「MONUSCO が行った釈放要求を支持する」との共同コミュニケを発表した。同コミュニケではまた、「コンゴ(民)政府と州当局による集会の自由に対する制限を深く憂慮し」、政府と治安当局に対し、「市民社会及び野党による平和的行動を妨害しないよう」要請した。

**(6) ヘイリー米国連大使のコンゴ(民)訪問**

・25日夕刻、ヘイリー米国連大使は、約30名の随員とともに、軍用機でキンシャサに到着した。28日にコンゴ(民)を出発の予定で、エチオピアと南スーダンに続き3か国目となる。

・26日、ヘイリー大使は、北キブ州ゴマ市に到着し、その後、同市の北西80キロに位置するキチヤンガ(Kitchanga)国内避難民(IDP)キャンプを視察した。

・27日、ヘイリー大使は以下のコンゴ(民)関係者と会談を行った(順不同)。

ア カビラ大統領

イ ミナク国民議会議長

ウ 独立国家選挙委員会(CENI)(ナンガー委員長、バセンゲジ副委員長等)

エ コンゴ・カトリック司教会議(CENCO)(ウテンビ議長、アンボンゴ副議長等)

オ 野党代表(カメレ UNC 党首、バザイバ MLC 幹事長、F・チセケディ UDPS 副幹事長、ルンビ MSR 党首)